

演習で理解する

中小設計現場でも活用できる

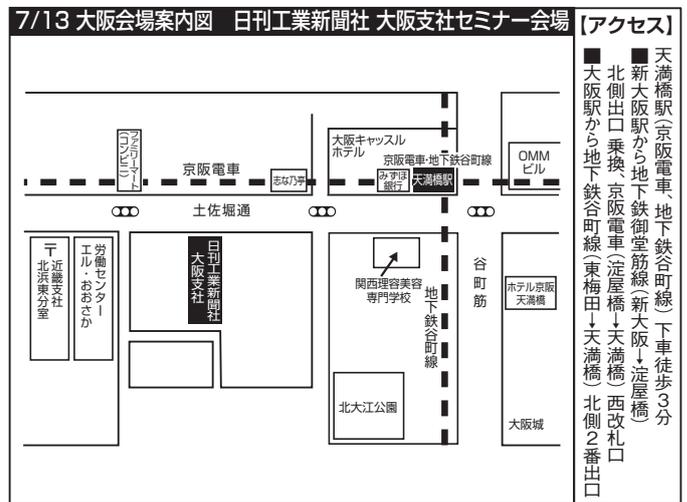
正しい流用設計をするための モジュールと変化点管理の方法

東京会場 日時 2018年 6月 1日(金) 10:00~17:00 (9:30受付開始、休憩 12:30~13:30) **会場** 日刊工業新聞社 東京本社 セミナールーム
東京都中央区日本橋小網町 14-1 (住生日本橋小網町ビル)

大阪会場 日時 2018年 7月 13日(金) 10:00~17:00 (9:30受付開始、休憩 12:30~13:30) **会場** 日刊工業新聞社 大阪支社 セミナー会場
大阪市中央区北浜東 2-16

受講料 43,200円(資料含む、消費税込)
*同一会場にて1社複数人数で参加の場合、2人目より10%割引いたします(38,880円)

主催 日刊工業新聞社



●申込方法 申込書を郵送又はFAXにて下記にお申し込みください。ホームページからもお申し込みできます。(http://corp.nikkan.co.jp/seminars/) 受講料は銀行振込で受講票及び請求書が到着次第、開催日1週間前までにお支払いください。なお、キャンセルにつきましては開催日1週間前までの受付とさせていただきます。1週間前までにご連絡がない場合はご欠席の方もキャンセル料として受講料全額を頂きます。振込手数料は貴社でご負担願います。 ※会場には受講者用の駐車場がありません。必ず最寄りの公共交通機関でご来場ください。 ※講義の録音・録画は固くお断りいたします。

●申込先 日刊工業新聞社 業務局 イベント事業部 技術セミナー係
〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1 (住生日本橋小網町ビル) TEL 03 (5644) 7222 FAX 03 (5644) 7215
e-mail: j-seminar@media.nikkan.co.jp

受講
申込書

流用設計

※○印を記入してください
(6/1 東京) (7/13 大阪)

お申し込みは FAX 03-5644-7215

■受講料: 43,200円(資料含む、消費税込) *同一会場にて同時複数人数お申し込みの場合2人目から38,880円 ※振込手数料は貴社にご負担ください。

会社名		業種	
氏名	フリガナ _____ 部署・役職 _____	TEL	
所在地	〒 _____	FAX	
E-mail :		※今後、E-mailによるご案内を希望しない方は チェックをしてください。 <input type="checkbox"/>	

※お申込み受付後、受講票ならびに請求書をお送りいたします。

個人情報の取り扱いについて

ご登録いただいた情報は日刊工業新聞社が細心の注意を払い、展示会・セミナー・サービス等、各種ご案内を送らせていただくことを目的に利用させていただきます。なお、宛先変更・配信停止をご希望の際は右記までご連絡ください。【ご連絡先】日刊工業サービスセンター 情報事業部 nkmail01@nikkansc.co.jp

No.180052
No.182035

開催主旨

現在の設計のやり方で主流となっているのが、「流用設計」である。しかし、間違っただけの流用設計のやり方により、品質トラブルが多くなっています。

本来、流用設計するためには様々な準備が必要であり、準備物とともに新規設計部分を見出し、問題をあらかじめ抽出し対策する変化点管理が非常に重要です。正しい準備と手法を用いれば中小企業でも流用設計により自社の技術を多くの顧客に広く提供することが可能となります。

この正しい流用設計のための準備物であるモジュールと変化点管理の方法を説明していきます。さらにモジュールと変化点管理の理解を演習を通して深めていただきます。

講師

(株)A&Mコンサルト 取締役 経営コンサルタント **中山 聡史** 氏

【略歴】 関西大学機械システム工学科を卒業した後、トヨタ自動車(株)に入社。エンジン設計および開発、品質管理、環境対応業務などに従事し、ほぼすべてのエンジンシステムに関わる。また、海外での走行テストなども経験する。2011年、A&Mコンサルトに入社。「モノ造りのQCDの80%は設計で決まる!」の理念のもと、多くのモノづくり企業で設計業務改革を推進する。例えば、機械設備産業会社「A社」においては3DCAD導入に伴う設計業務改革コンサルティングに当たり、モジュール化による出図納期50%改善などの成果を、機械設備産業会社「B社」においては、デザインレビュー(DR)の仕組の構築および定着などに当たり、設計不良件数20%低減などの成果をそれぞれ上げている。そのほか品質・製造改善や生産管理システムの構築も得意とする。

プログラム

1) 間違っただけの流用設計のやり方

2) 間違っただけの流用設計のやり方によって発生する品質問題

3) 品質問題から考える間違っただけの設計方法

- (1) 間違っただけのモジュール化
- (2) 間違っただけの変化点管理
- (3) バックローディング

4) 本来の設計手法

- (1) フロントローディング
- (2) あるべき設計プロセス
- (3) モジュール化と変化点管理

5) 最新モジュール化手法

- (1) モジュール化の基本概念
- (2) モジュール化のメリットとデメリット
- (3) モジュール化の時代の変遷と現在の考え方
- (4) モジュール化の事例紹介
- (5) モジュール化の進め方

演習

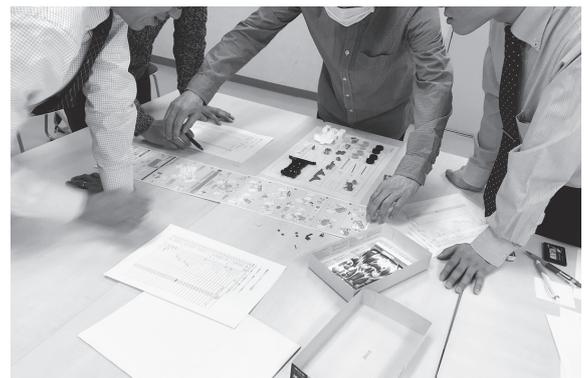
～大流行した小型モーター動力自動車プラモデルをモジュール化し、理解を深める～

6) 変化点管理手法

- (1) 流用部分と新規部分の抽出方法
- (2) 流用・新規の変化点管理方法
- (3) 新規設計部分での問題抽出DRBFM
 - ① DRBFMの定義、誕生の経緯
 - ② DRBFMの構成
 - ③ DRBFMの検討内容
 - ④ DRBFMの内容

演習

～100円ライターを用いた問題の未然防止～



実際のセミナー風景

～演習を通じて実務に活かせるイメージをつかんでいただきます～